

令和6年度

第37回 愛媛県中学校新人体育大会
兼

大会要項

第18回 愛媛県中学校新人アスリート強化育成大会



愛媛県教育委員会

愛媛県中学校体育連盟

第37回 愛媛県中学校新人体育大会
兼 大会要項
第18回 愛媛県中学校新人アスリート強化育成大会

- 1 主催 愛媛県教育委員会・愛媛県中学校体育連盟・開催地教育委員会
- 2 主管 東・中・南予中学校体育連盟
- 3 期日 令和6年10月26日(土)・11月8日(金)～12日(火)
11月15日(金)～16日(土)
- 4 場所 東・中・南予各ブロック
- 5 競技 陸上競技・バスケットボール・サッカー・ハンドボール・軟式野球
体操競技・新体操・バレーボール・ソフトテニス・卓球・バドミントン
ソフトボール・柔道・剣道・相撲・ラグビーフットボール・テニス
- 6 競技規程 別記のとおり
- 7 参加資格 本連盟に加入の中学生であって、地区予選を経て出場権を得た者。
- 8 申込・抽選 令和6年10月25日(金)に郡市理事がまとめて抽選会場に持参し、
郡市理事、専門部長による責任抽選とする。
- 9 表彰 (1) 団体競技は、次のとおり表彰する。
 - ① 優勝チーム … 賞状、優勝旗を授与する。
さらに、登録選手には賞状を授与する。
 - ② 準優勝チーム … 賞状、準優勝杯を授与する。
 - ③ 第3位チーム … 賞状を授与する。※ 陸上競技、水泳競技は、団体(総合順位)表彰を行わない。
(2) 個人種目は、第1位～第3位の選手に賞状を授与する。

競 技 規 程

- 1 競技は、本年度の各競技の規則に準じて行う。
- 2 参加は、学校部活動、地域クラブ活動共に1団体1チームとする。但し、「愛媛県中学校総合・新人体育大会に関わる合同チーム編成規程」による合同チーム及び、市町教育委員会が認めた拠点校部活動の参加を認める。
特例として、次年度に中学校の統合が決定している場合は、出場最低人数に関係なく、個人の部をもつ競技も含め、全ての競技において、それぞれの校長の判断により、当該中学校同士の合同チームを編成することができる。
- 3 試合成立最低人数に満たない場合、次の3競技は、以下の条件で団体戦に出場できる。
 - (1) バドミントン・・・規定は5人であるが、4人あるいは3人での出場可。
 - ① 5人の場合・・・D, S, D
 - ② 4人の場合・・・D, ×, D (×は棄権)
 - ③ 3人の場合・・・D, S, × (×は棄権)
 - (2) 卓 球・・・規定は6人であるが、5人あるいは4人での出場可。
 - ① 6人の場合・・・S, S, D, S, S
 - ② 5人の場合・・・×, S, D, S, S (×は棄権)
 - ③ 4人の場合・・・×, ×, D, S, S (×は棄権)
 - (3) テ ニ ス・・・規定は7人であるが、4～6人での出場可。
 - ① 7人の場合・・・D₂, D₁, S₃, S₂, S₁
 - ② 6人の場合・・・D₂, D₁, ×, S₂, S₁ (×は棄権)
 - ③ 5人の場合・・・×, D₁, S₃, S₂, S₁ (×は棄権)
 - ④ 4人の場合・・・×, D₁, ×, S₂, S₁ (×は棄権)
- 4 出場権を得たチームがやむを得ず出場を辞退する場合は、次位チームが出場してもよい。ただし、参加申込書提出後の繰り上げ出場は、認めない。
- 5 学校部活動のチーム・選手の引率・監督は、出場校の校長・教員・部活動指導員であること。コーチは、出場校の教職員とする。地域クラブ活動のチーム・選手の引率・監督・コーチは、事前に愛媛県中学校体育連盟に登録された指導者とする。
学校部活動については、校長・教員・部活動指導員が引率できないと校長が判断した場合、「愛媛県中学校体育連盟主催大会引率細則」により、校長が適切であると承認した外部指導者(コーチ)に引率及び監督の資格を認める。
- 6 愛媛県中学校新人体育大会では、外部指導者(コーチ)をおくことができる。また、「体操競技」は、選手の安全確保を目的として、当該校以外の中学校に勤務する教職員を「テクニカル・アドバイザー」として登録できる。外部指導者(コーチ)及びテクニカル・アドバイザーは、出場校の校長が認めた者とする。(※地域クラブ活動は該当しない)
複数校の外部指導者が認められる競技において、外部指導者が引率細則に則っていずれかの学校で引率・監督となった場合、他校の外部指導者となることはできない。
- 7 出場校の監督、コーチ、外部指導者(コーチ)、テクニカル・アドバイザーは、「監督証、コーチ証、外部指導者(コーチ)証、テクニカル・アドバイザー証の所持義務一覧」に則って、「監督証」、「コーチ証」、「外部指導者(コーチ)証」、「テクニカル・アドバイザー証」を所持すること。当該証を所持しない場合は、ベンチ入りできない。
- 8 監督、コーチ、外部指導者(コーチ)、テクニカル・アドバイザー、マネージャーは、当該競技にふさわしい服装で大会に臨むこと。
- 9 出場に関しては、当該競技の日程が重複しない場合、複数の競技に出場してもよい。
※ 地域クラブ活動に登録した選手は、複数競技への出場は認めない。
- 10 申込書提出後の変更については、「変更届について」の規程に則って、「変更届」を提出すること。
- 11 荒天時は、「荒天時の対応に関する申し合わせ事項」に則って対応する。
- 12 開閉会式は、競技ごとに行う。
- 13 大会運営は、すべて東・中・南予各ブロックの責任において行う。
- 14 個人情報の取扱い(利用目的)については、次のとおりとする。
大会の主催者は、個人情報保護に関する法令を遵守し、取得する個人情報について適正に取り扱う。
取得した個人情報は、競技大会の資格審査・競技大会運営上必要なプログラム編成及び作成・ホームページ・掲示板・報道発表・記録発表(記録集)等、その他競技運営及び競技に必要な連絡等に利用する。大会に参加する各選手は、原則、これに同意すること。
主催者に認められた報道機関等によって撮影された映像が、中継・録画放映およびインターネットにより配信されることがある。大会に参加する各選手は、原則、これに同意すること。
- 15 参加料は、参加選手一人につき600円(マネージャーは除く。)とする。複数の競技に出場する場合、参加料は競技ごとに振り込むこと。【例：柔道と相撲に出場の場合、参加料は1,200円】
なお、参加料振込後は、出場辞退に伴う参加料の返金はしない。

第 37 回愛媛県中学校新人体育大会
兼 第 18 回愛媛県中学校新人アスリート強化育成大会出場数基準

1 出場チーム数は、各競技の特性や生徒数の推移を考慮して、以下のとおりとする。

競技名		出場チーム数
バスケットボール	男女	8チーム以上→2、15チーム以上→3、22チーム以上→4
サッカー	—	6チーム以上→2、12チーム以上→3、18チーム以上→4
ハンドボール	男女	県内8チーム以内→全チーム
軟式野球	—	6チーム以上→2 、15チーム以上→3、22チーム以上→4
体操競技	男女	フリー
新体操	女	フリー
バレーボール	男	3チーム以上→2、6チーム以上→3、9チーム以上→4
	女	7チーム以上→2、13チーム以上→3、19チーム以上→4
ソフトテニス	男女	7チーム以上→2、13チーム以上→3、19チーム以上→4
卓球	男女	5チーム以上→2、10チーム以上→3、15チーム以上→4
バドミントン	男女	各地区2チーム（新居浜市／松山市→4チーム）
ソフトボール	男	県内8チーム以内→全チーム
	女	4チーム以上→2
柔道	男	各地区2チーム、5チーム以上→3、7チーム以上→4 9チーム以上→5、11チーム以上→6
	女	フリー
剣道	男	4チーム以上→2、8チーム以上→3、12チーム以上→4 16チーム以上→5、20チーム以上→6、24チーム以上→7
	女	3チーム以上→2、6チーム以上→3、9チーム以上→4 12チーム以上→5、15チーム以上→6、18チーム以上→7
相撲	男	各地区2チーム（松山市／宇和島・北宇和→4チーム）
ラグビーフットボール	—	県内8チーム以内→全チーム
テニス	男女	フリー

2 個人出場数は、以下のとおりとする。

競技名	個人出場数
陸上競技	各種目各ブロック上位8選手（リレーは各4チーム）
体操競技	フリー
新体操	フリー
ソフトテニス	団体1 → 個人4 団体2 → 個人8 団体3 → 個人12 団体4以上 → 個人16
卓球	団体1 → S4・D2 団体2 → S8・D4 団体3 → S12・D6 団体4以上 → S16・D8
バドミントン	シングルス4・ダブルス4（松山市と新居浜市→S8・D8）
柔道	男 各郡市4名（団体4以上の郡市→団体数+1名、松山→8名）
	女 各郡市4名（団体4以上の郡市→団体数+1／最大8名まで）
剣道	団体1 → 個人4 団体2 → 個人8 団体3 → 個人12 団体4以上 → 個人16
相撲	フリー
テニス	シングルス → 各郡市16名以内 ダブルス → 各郡市8ペア以内

陸 上 競 技

1 大会期日 令和6年10月26日(土)

競技開始 9:30

2 会 場 愛媛県総合運動公園陸上競技場(ニンジニアスタジアム)

3 参加規定

(1) 第37回愛媛県中学校新人体育大会兼第18回愛媛県中学校新人アスリート強化育成大会競技別出場数基準による。

各個人種目の出場人数 東予地区:8 中予地区:8 南予地区:8

リレー競技の出場チーム数 東予地区:4 中予地区:4 南予地区:4

(2) リレーは1団体1チームとする。また、同一人は、1種目(リレーをのぞく)とする。

(3) 申込締切 令和6年10月17日(木)

4 競技種目

(1) 男子(15種目)

ア 学年別種目 1年100m 2年100m 1年1500m 2年1500m

イ 共通種目 200m 400m 800m 3000m 110mH

走高跳 棒高跳 走幅跳 三段跳 砲丸投 4×100mR

(2) 女子(12種目)

ア 学年別種目 1年100m 2年100m 1年1500m 2年1500m

イ 共通種目 200m 800m 100mH

走高跳 棒高跳 走幅跳 砲丸投 4×100mR

(3) 男女棒高跳のオープン参加について

棒高跳においては、男女ともに参加基準人数以外でのオープン参加を認める。ただし、リレーを除く競技種目に出場している選手のオープン参加は認められない。

5 競技方法

- (1) 種目別個人選手権とする。(学校対抗は実施しない)

6 競技規定

- (1) 2024年度日本陸上競技連盟競技規則、本大会要項及び競技注意事項を適用する。
- (2) スタートの合図は英語とする。不正スタートについては、1回目から失格とする。
- (3) トラック競技の予選は、各組の上位2着までと、3着以下全体の上位2名が決勝に進出することができる。ただし、予選記録が同記録の場合は、日本陸連の規則に準じて決勝進出者を決定する。
また、男女1500m、男女4×100mRはタイムレース決勝、男子3000mについては決勝レースのみとする。
- (4) 男子110mH・・・台数10台 高さ91.4cm
スタート～第1ハードル13.72m ハードル間9.14m
女子100mH・・・台数10台 高さ76.24cm
スタート～第1ハードル13.00m ハードル間8.00m
- (5) 砲丸投の砲丸は、男子5.0kg、女子2.721kgを使用する。
- (6) 走幅跳、三段跳、砲丸投は3回の試技を行い上位8名を決定する。上位8名は、さらに3回の試技を行い順位を決定する。
- (7) 三段跳における、踏切板から砂場までの距離は9mとする。
- (8) 全天候競技場であるため、スパイクピンの長さは9mm以下とする。ただし、走高跳は12mm以下とする。またスパイクピンの本数は11本以内とする。
- (9) 競技に使用する器具は、すべて主催者が用意したものを使用する。ただし、棒高跳用ポールは、個人所有のポールを現地で検査を受け、合格したものに限り使用が認められる。

(10) 走高跳・棒高跳のバーの上げ方、次の通りとする。

		練習	1	2	3	4	5	6	7	8	
走高跳	男	125	130	135	140	145	150	155	160	163	以後 3 cmごと
	女	115	120	125	130	135	140	143	146	149	以後 3 cmごと
棒高跳	男	220	230	240	250	260	270	280	290	300	以後 10cmごと
	女	150	160	170	180	190	200	210	220	230	以後 10cmごと

7 その他

- (1) アスリートビブスは、大会当日の受付時に各地区専門委員より配布されるものを用いる。各種目に出場の際は、このアスリートビブスを背と胸に糸または安全ピンでとり付ける。ただし、跳躍競技の出場者は、胸または背のいずれかに付けるだけでよい。なお、アスリートビブスは、大会終了時に各地区専門委員まで返却する。

県新人アスリートビブス一覧表

地区	番号	地区	番号	地区	番号
東 予	1～200	中 予	201～400	南 予	401～600

バスケットボール

1 参加規定

- (1) 第37回愛媛県中学校新人体育大会兼第18回愛媛県中学校新人アスリート強化育成大会競技別出場数基準による。
- (2) 各地区男女代表チーム。(クラブチームも同様とする。)
- (3) 1チームの編成は、引率責任者1名・コーチ1名・アシスタントコーチ1名・マネージャー1名・選手15名の計19名以内とする。(引率責任者は、コーチ、アシスタントコーチまたはマネージャーを兼務できる。)
※ 申し込み時に登録した学校代表者(管理職)1名はベンチに入ることができる。
- (4) 中学校においては外部指導者を1名おくことができ、試合中に証明書を確認できるようにしておく。外部指導者がベンチで指揮を執る場合は、参加申込者のコーチ欄に氏名を記入する。
- (5) チームトレーナーが帯同する場合は、申し込み時に所定の「チームトレーナー申請書(校長承認書)」を提出する。
※ HP上の「チームトレーナー(帯同)の役割と登録について」を参照のこと。
※ チームトレーナーの申し込み後の変更は認められない。
- (6) 外国籍選手(JBA基本規程に基づく)の大会エントリーは1チームあたり2名までとする。

2 競技方法

- (1) トーナメント方式とする。

3 競技規定

- (1) 2024(公財)日本バスケットボール協会競技規則による。
- (2) 試合球は、(公財)日本バスケットボール協会検定球、男子7号・女子6号皮革製とする。
- (3) 「マンツーマンディフェンスの規程規則」に則って運営する。
- (4) ベンチは、組合せ番号の小さい方がオフィシャル席に向かって右側とする。
- (5) ユニフォームの色は、組合せ番号の小さい方が白色とする。
- (6) 外国籍選手(JBA基本規程に基づく)の出場は、コート上5名のうち1名以内とする。

サ ッ カ ー

1 参加規定

- (1) 第 37 回愛媛県中学校新人体育大会兼第 18 回愛媛県中学校新人アスリート強化育成大会競技別出場数基準による。
- (2) 各地区代表チーム【1 チームは、引率者 1 名・監督 1 名・コーチ 1 名（全て監督が兼ねることができる）、選手 1 8 名の計 2 1 名以内とする。】クラブチームも同様とする。

2 競技方法

- (1) ノックアウト方式とする。
- (2) 試合時間は、6 0 分（3 0 分ハーフ）とする。勝敗が決しないときは、1 0 分間（5 分ハーフ）延長し、なお決しないときは、PK 方式によって勝敗を決する。
- (3) 酷暑対策として、飲水タイムもしくは、クーリングブレイクを設けることがある。ただし、その決定は大会競技委員会で行うものとする。

3 競技規定

- (1) 2024 年度(公財)日本サッカー協会の「サッカー競技規則」による。
- (2) 選手登録は 1 8 名とし、競技開始前に登録した最大 7 名の交代要員の中から 7 名までの交代が認められる。一度退いた競技者は再び出場することができない。
ただし、交代の手続きは従来どおりサッカー競技規則第 3 条に則って行う。
- (3) 使用球は、公認球（5 号）とし、競技規則第 2 条に適合するものとする。
- (4) 本大会において退場を命じられた選手は、次の 1 試合に出場できず、違反行為の内容によっては、大会の規律委員会（又は競技委員会等で規律委員会に代わるもの）で、それ以降の処置について決定する。
- (5) 本大会期間中、警告を 2 回受けた選手は、次の 1 試合に出場できない。

4 注意事項

- (1) ユニフォームは、必ず 1 着以上を持参すること。（2 着以上が好ましい。）背番号は、1 番から 9 9 番までとする。
- (2) 審判員と同一又は類似色のユニフォームのシャツを着用することはできない。ゴールキーパーについても同様である。
- (3) 雷発生の危険性が高い場合は、直ちに試合を中断し、その後の処置については大会本部で決定する。

ハンドボール

1 参加規定

- (1) 第37回愛媛県中学校新人体育大会兼第18回愛媛県中学校新人アスリート強化育成大会競技別出場数基準による。
- (2) 各地区男女代表チーム（1チーム選手15名以内とする。）クラブチームも同様とする。

2 競技方法

トーナメント方式。

同点の場合は第1延長のみとする。決勝戦は第2延長まで行い、決定しない場合は、7mスロー（5名）によって決する。

（3チームの場合は、リーグ戦。（同率の場合は得失点差で順位を決定する。））

3 競技規定

- (1) 2024年度(公財)日本ハンドボール協会競技規則並びに(公財)日本中体連ハンドボール部競技運営に関わる申し合わせ事項による。
- (2) ユニフォームには前番、背番をつける。
- (3) 試合球は、日本ハンドボール協会検定球（男子2号、女子1号）とする。
- (4) 試合時間は、25分ー10分ー25分とする。
- (5) 選手15名以内、監督1名、役員3名（学校部活動…当該校教職員・部活動指導員・外部指導者1名以内。地域クラブ活動…指導資格を有する指導者を含むことが望ましい。）
- (6) 体育館シューズを使用する。
- (7) ユニフォームは、コート上でGKとCPの4色が判別できるものを用意する。
- (8) ゴールキーパーをする者は、自分のチームと同色のナンバージャケットでも可。

4 注意事項

館内では、松ヤニ及び松ヤニスプレーの使用は禁止する。（粘着テープは可とする。）

軟 式 野 球

1 参 加 規 定

- (1) 第37回愛媛県中学校新人体育大会兼第18回愛媛県中学校新人アスリート強化育成大会競技別出場数基準による。
- (2) 各地区代表チーム。1チームの編成は、監督（引率責任者）1名、選手20名以内（スコアラーを含む。）とする。また、この他の教員を2名追加することができる。ただし、外部指導者（コーチ）が入る場合は1名とし、計23名以内とする。
- (3) 監督（引率責任者）は出場校の校長・教員・部活動指導員、外部指導者（コーチ）は出場校の校長が認めた者とする。

2 競 技 方 法

- (1) 全試合トーナメント方式とし、各試合は7回戦とする。
- (2) 5回以降7点差でコールドゲームを適用する。
- (3) 勝敗が決しない場合は特別延長戦を行う。
- (4) 背番号は、監督は30番とする。コーチは29番、28番をつける。選手は1から20番とし、原則としてポジション順とする。

3 当該年度公認野球規則及び大会特別規定による。

ピッチクロックを適用する。同一日における投手に関する投球制限（1日100球）がある。なお、一週間の投球数が350球以内は適用しない。また、指名打者制度は適用しない。

【大会特別規定】

【試合開始前】

- 1 監督に引率されたチームは、試合開始予定時刻60分前までに到着し、その旨を大会本部に申し出る。試合開始予定時刻になってもチームが到着せず、それらについて何ら連絡がない場合には棄権とみなす。ただし、交通事情による到着遅延については、大会本部で協議し決定する。
- 2 第1試合のメンバー用紙交換および攻守決定は、試合開始予定時刻40分前とする。第2試合以降は前試合の4回終了時とする。各チームの監督と主将は、所定のメンバー表5部を持って、本部1名とで打ち合わせをする。
- 3 ベンチは抽選番号の若い方を1塁側とする。
- 4 シートノックについては以下の通りとする。
 - ① 試合当日の最初の試合のみとするが、球場が変わった場合はこの限りではない。
 - ② 時間は5分以内とする。状況によっては短縮または省略することもある。
 - ③ 後攻のチームが先に行う。
 - ④ 監督・コーチ・登録選手の他に、3名の補助員（当該チーム選手）をつけて行うことができる。補助員もユニフォームを着用する。
 - ⑤ ノッカーは選手と同一のユニフォームを着用する。
 - ⑥ 相手チームがシートノックをしている時はベンチからでない。ただし、先発投手の投球練習と終了2分前通告後の先攻チームのベンチ前でのキャッチボールや準備運動は認める。
 - ⑦ 守備練習であるからマウンドでの投球練習は認めない。
 - ⑧ シートノックをしないチームは、攻守決定時に本部に伝える。
- 5 バット・マスク・ヘルメット等の用具は、試合前に審判の確認に応じなければならない。

【試合中】

- 6 暗黒・降雨などで試合が途中で中止になった場合は、翌日の第1試合に先立って特別継続試合を行う。その際、投手の投球数も継続する。
- 7 攻守交代は全力疾走で行い、先頭打者とベースコーチは、ミーティングに参加せず、直ちに所定の位置につくこと。
- 8 攻守交代のとき、投手またはプレートに最も近い選手が球を投手板近くに置くこと。
- 9 試合中の球場内では、次打者以外は素振りなどをしてはいけない。
- 10 投手の準備投球は、初回と投手交代のときは7球以内とするが、2回以降は3球とする。（審判が状況を考慮する。）また、捕手、予備捕手は安全のため、座って捕球する場合は、レガース、プロテクター、ヘルメット、スロートガードを着用しマスクをかぶる。
- 11 メガホンの使用は、監督のみとする。また、電子機器類の使用は、電子スコア記録用としても認めない。
- 12 選手交代の申し出は、監督が行う。コーチは試合前のノックを行うとき以外は、ベンチから出ないものとする。
- 13 審判員に対して規則適用上の疑義については、当事者と監督が直接、質問することができる。
- 14 走者のいるときに、投手が球を持たないで投手板のすぐそばに立ち、野手が隠し球の行為をしようとした時、明らかに相手チームが気づいている場合は即注意をし、球を投手に戻させる。
- 15 突発事故が起きた場合に、一時走者を代えたいときは球審に申し出て、審判団が必要と認めた場合はこれを許可する。臨時代走は、投手を除く打者前位の者とする。
- 16 試合進行上、打者席を外すなど、無用なタイムは慎み、サインは打者席から見るなどスピーディな試合進行を心掛ける。ボール回しは、試合の進行上禁止することがある。
- 17 本塁打を打った打者に握手を求めるために、グラウンドに出てはいけない。
- 18 危険防止のために次のことを徹底する。
 - ① バットリング、鉄棒等の球場内への持込を禁止する。
 - ② 足を上げてのスライディングは禁止し、現実に妨害になった場合は走者をアウトにする。
 - ③ 捕手のレガース・プロテクター・ヘルメット・スロートガード・ファウルカップと打者と走者及びシートノック時にノッカーにボールを渡す生徒の両耳付きヘルメットを着用すること。ベースコーチとバットボーイは危険防止のためにヘルメットを着用すること。また、リストバンド及びハイカットストッキングの使用を禁止する。
- 19 「投手は、同一イニングで、投手以外の守備位置についたら、再び投手となる以外他の守備位置に移ることもできないし、投手に戻ってから投手以外の守備位置に移ることもできない」は適用しない。

【規則適用上の解釈】

中学校野球では、登録人員の関連で本規則を適用しないとしたものである。審判員は、これを作戦上の目的等、本来の趣旨からはなれて利用されることのないように留意されなければならない。

- 20 交代して一度退いた選手はウォーミングアップなどの相手のほか、ベースコーチ、伝令も許される。
- 21 タイムに関しては公認野球規則による。
- 22 塁上の走者、およびコーチボックスやベンチから、球種などを打者に知らせるためのサインを出すことを禁止する。
- 23 勝敗が決着しない場合は、次のような特別延長戦を行う。

<特別延長戦>

継続打順で、前回の最終打者を一塁走者、二塁の走者は順次前の打者とする。すなわち、無死1・2塁の状態にして1イニング行い、得点の多いチームを勝ちとする。勝敗が決しない場合はさらに継続打順でこれを繰り返す。なお、規則によって認められる選手の交代は許される。

24 応援団は次の禁止事項を守ること。なお、これについては各チームの監督が責任を持って指導すること。

- ① 紙吹雪・テープ・個人名を書いたのぼり等を禁止する。
- ② 相手チームをやじったり、相手チームに不利を招くような応援をしない。（特に相手投手が投球動作に入った場合については過度な声援はやめる。）
- ③ 応援席周辺を散らかさない。ごみは持ち帰る。
- ④ 球場の設備を傷つけたり、ゲームを妨害するような応援はしない。

【試合後】

25 試合終了の挨拶は、ホームプレートをはさんで全て完了することとし、次の試合のために速やかにベンチをあけること。

26 各チームの監督は、球場を去る前（試合終了30分以内）に大会本部に連絡をし、次の日程などを確認する。

【その他】

27 ベンチに入る教員は平服（ワイシャツ・ネクタイまたは白いポロシャツおよび選手と同一の野球帽子）または、選手と同一のユニフォームとする。また、コーチを兼ねる場合には、選手と同一のユニフォームを着用し背番号を付ける。ただし、女性の場合は考慮する。（サングラスは使用しない）

28 監督・外部指導者（コーチ）は選手と同一のユニフォームを着用する。（サングラスは使用しない。）

29 選手のテーピングは肌色に近い色のものを用い、投手は投球に影響の与えるものは使用できない。

30 選手の頭髪や身なりは中学生らしく、試合中はもちろんのこと、試合後においてもスポーツマンらしくマナーについては十分に考慮する。

31 天候等による大会の実施の可否、試合の中断及び日程の変更は、大会本部で決定し、連絡する。

4 使用球及び使用器具

- (1) 使用球は、（公財）日本中学校体育連盟公認球M号球（ナガセケンコー）とする。
- (2) その他の使用器具は、（公財）全日本軟式野球連盟公認のものとする。
- (3) ロジンは各チームで準備する。

体 操 競 技

1 参加規定

- (1) 第 37 回愛媛県中学校新人体育大会兼第 18 回愛媛県中学校新人アスリート強化育成大会競技別出場数基準による。
- (2) 各地区男女代表チーム（1 チームは 3～4 名で編成し、その他に補欠 1 名を認め、学校単位とする。団体の補欠と個人を兼ねることはできない。）地域クラブ活動も同様とする。

2 競技方法

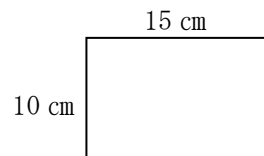
- (1) 男女とも自由演技を実施する。
- (2) 種目は、次の通りとする。
 - ① 男子：ゆか・あん馬・跳馬・鉄棒
 - ② 女子：跳馬・段違い平行棒・平均台・ゆか
- (3) 団体総合は、3 種目（あん馬・段違い平行棒を除く）の演技とする。
個人総合は、4 種目の演技とする。

3 競技規定

- (1) 日本体操協会制定男子採点規則、中学男子適用規則を適用する。
- (2) 日本体操協会制定女子採点規則、変更規則 I を適用する。
- (3) 日本体操協会制定採点規則最新版（日本中体連体操競技部遵守事項を適用）

4 注意事項

- (1) 服装は、体操競技にふさわしいユニフォームを着用すること。ユニフォームには、学校名またはチーム名を示すマークを付けること。（推奨 3 cm×3 cm 以上）
背番号は、右に示した大きさのものを付けること。
 - ① 男子：白地に黒文字
 - ② 女子：白地に赤文字



（縦 15 cm、横 20 cm でも可）

★ 個人は、100 をプラスする。

1～5： 四国中央	6～10： 新居浜	11～15： 西 条
16～20： 今治・越智	21～25： 東温	31～35： 松山 1
36～40： 松山 2	41～45： 松山 3	46～50： 松山 4
51～55： 伊 予	56～60： 大洲・喜多	71～75： 八幡浜・西宇和
76～80： 西 予	81～85： 宇和島・北宇和 1	86～90： 宇和島・北宇和 2
91～95： 宇和島・北宇和 3	96～99： 宇和島・北宇和 4	

- (2) チームの演技順序は抽選する。
- (3) フロアには、選手・監督及び各チーム 1 名のコーチ（コーチ証表示）が入ってもよい。
- (4) 監督・チームリーダー・外部指導者（コーチ）は、短パン厳禁とする。
- (5) 採点間の練習を認める。ただし、移動前の次種目の練習は認めない。
- (6) 演技前のアップ時間は、団体：2 分、個人：1 人 3 0 秒とする。ただし、跳馬は 1 人 2 本、段違い平行棒は 1 人 5 0 秒以内とする。
- (7) 女子個人の出場選手には、1 名の音楽係を付けてよい。
- (8) 会場により、器械の規格、高さ、マットの厚さ等完全に対応できない場合がある。

新 体 操

1 参加規定

- (1) 第37回愛媛県中学校新人体育大会兼第18回愛媛県中学校新人アスリート強化育成大会競技別出場数基準による。
- (2) 各地区代表チーム（1チーム5名で、3名の補欠を申し込むことができる。）クラブチームも同様とする。

2 競技方法

- (1) 自由演技を実施する。団体種目は、「フープ5」（補欠3名以内）とする。
個人種目は、「ボール」か「フープ」の一人1種目とする。
- (2) 演技時間は、次のとおりとする。
 - ① 団体：2分15秒～2分30秒
 - ② 個人：1分15秒～1分30秒

3 競技規定

- (1) 競技規則は、「日本体操協会制定新体操採点規則2022～2024年」とし、一部中体連ルールを適用する。
- (2) 手具の規格は、日本体操協会の競技規則に準ずる。（フープの予備手具は81cmとする。）
- (3) レオタードは、日本体操協会採点規則を適用する。（2024年より以前の物は許可されない。）
- (4) マークは、3cm×3cm以上の学校マーク（学校名・チーム名・校章・略称・イニシャルでも可とする）を、前面ウエストより上につける。
- (5) 練習着も含め、セパレートタイプ（露出度の高いもの）は禁止する。ただし、セパレートでも、腹部の見えないタイプは許可される。
- (6) 化粧・髪飾り・ピン等の光るものは使用禁止とする。

バレーボール

1 参加規定

- (1) 第37回愛媛県中学校新人体育大会兼第18回愛媛県中学校新人アスリート強化育成大会競技別出場数基準による。
- (2) 各地区男女代表チーム。(クラブチームも同様とする。)

2 競技方法

- (1) グループ戦及びトーナメント方式で実施する。

3 競技規定

- (1) 2024年度(公財)日本バレーボール協会制定6人制競技規則及び競技要項に準ずる。
※ リベロプレーヤーについては、一般と同様の「リベロリプレイスメント」ルールで行う。
(取扱の詳細は、県中体連ホームページに掲載する。)
- (2) ベンチに入れる者は、選手12名以内と監督・コーチ・マネージャー各1名とする。監督・コーチは、出場校(チーム)の校長・教員・部活動指導員・地域スポーツ団体等(地域クラブ活動)の代表(指導)者であり、引率者としての責任を負う。マネージャーは、生徒に限る。
コーチが外部指導者(コーチ)の場合は、当該校の校長が認めた者で、外部指導者(コーチ)証を付けること。なお、地域スポーツ団体等(地域クラブ活動)は該当しない。
- (3) 監督・コーチ・マネージャーは、必ず規定のマークを左胸部に付けること。
- (4) 監督・コーチ・マネージャーの服装は、統一されたものが望ましい。
(短パン・ランニングは不可)
- (5) 試合設定時刻は、試合開始時刻とする。
- (6) 予定開始時刻を過ぎた場合は、試合終了5分後にプロトコールを開始する。
- (7) ネットの高さは、男子2m30cm、女子2m15cmとする。
- (8) ボールは4号球で、人工皮革・カラーボールを使用する。
- (9) 公式練習は、毎試合ごとに行う。
- (10) 登録選手及びチームスタッフの変更については、当該チームの第一試合プロトコール開始までに、所定の変更届を各会場の本部に提出すること。
- (11) 給水のためのタイムアウトは実施しない。

ソフトテニス

1 参加規定

- (1) 第37回愛媛県中学校新人体育大会兼第18回愛媛県中学校新人アスリート強化育成大会競技別出場数基準による。
- (2) 団体戦：同一校（同一地域クラブ）の選手4名以上8名以内、監督1名で構成する。
- (3) 個人戦：同一校（同一地域クラブ）の選手2名と監督1名で構成する。

2 競技方法

- (1) 団体戦・個人戦ともにトーナメント方式とし、試合は7ゲームマッチとする。
- (2) 団体戦において、4名（2ペア）で出場する場合は、第1・2番対戦に出場し、第3対戦を不戦敗とする。
- (3) 団体戦を1日目、個人戦を2日目に実施する。

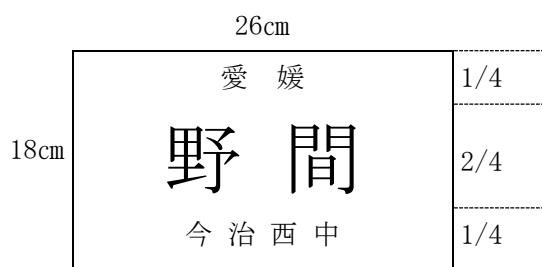
3 競技規定

- (1) 現行の(公財)日本ソフトテニス連盟「ソフトテニスハンドブック」および大会要項による。
- (2) 使用球は、公認球（白色）とする。（団体：ケンコー、男子個人：アカエム、女子個人：ダンロップ）
- (3) ユニフォームは、上は半袖のスポーツシャツ（襟なし可）、下は膝より上のパンツ・スカートを着用すること。ただし、服装（用具を含めて）の色等は、華美にならないようにする。シャツの袖をまくることはしない。また、ユニフォームは文言や記号を後から記入もしくは印刷し使用してはいけない。（学校指定の半袖・短パン体操服可）
- (4) サポーター、テーピング、アンダーシャツ、アンダータイツを使用する場合は、白・黒・ベージュの単色とする。
- (5) ハチマキ、帽子、サンバイザーには、正面に特別な文字や記号を記入もしくは印刷し、使用してはいけない。
- (6) 監督・選手ともテニスシューズを着用する。
- (7) 背中のゼッケンを各校で別の布などで作成し、背中の中央につける。ただし、四隅をとめることとする。すでにプリントされている文字は隠すように止めつけるものとする。
 - (ア) ゼッケンはB5版横（白地）の大きさの布に都道府県名、学校名（地域クラブ活動名）、姓を記述する。都道府県名の「都府県」の文字はつけないものとする。
 - (イ) ゼッケンの文字は「漢字」、「ひらがな」、「カタカナ」を使用し、文字色は「黒」とする。シャツそのものへのプリントは認めない。
 - (ウ) 都道府県内で同名の中学校がある場合には、区別をするために中学校名の表記の工夫をしてもよい。

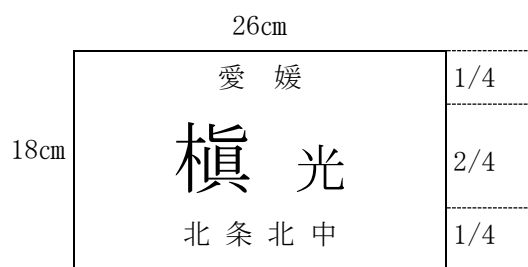
- (エ) ゼッケンの文字の位置は《例1》のとおりとし、同一校（同一地域クラブ）に同姓の選手がいる場合には《例2》のように名前の一部も付け加える。
- (オ) 中学校名が第一・第二中学校や東・西・南・北中学校のような場合には、学校名をわかりやすくするために、《例1》のように学校所在地を付記する。
- (カ) 学校名が「〇〇中学校」の場合は〇〇中と表記し、それ以外の「〇〇学園中等部」等の学校については、中をつけずに適当な表記で表現する。「地域スポーツ団体（地域クラブ活動）」の場合は、所属がわかるように表現する。《例3》
- (キ) 下図のように、（公財）日本ソフトテニス連盟で示されている三段とする。

[選手のゼッケン]

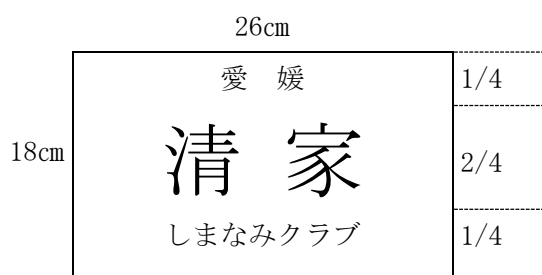
《例1》愛媛県今治市立西中学校 野間義明



《例2》愛媛県松山市立北条北中学校 槇光一郎



《例3》しまなみクラブ 清家優秀



4 注意事項

- (1) 地域クラブ活動は、必ず（公財）日本スポーツ協会公認スポーツ指導者「コーチ1」以上の資格を有する者が在籍しており、大会においてベンチ入りする者はその資格保有者であること。（ただし、当該年度は取得中の者でも可とする。）
- (2) オーダーは、試合ごとに1部を本部に提出する。
- (3) 個人戦の場合も、監督・コーチ（教員・部活動指導員・外部指導者）はベンチに入ってもよい。個人戦に2ペア以上出場する学校の場合は、出場ペア数までコーチをおくことができる。コーチ（教員・部活動指導員・外部指導者）は、申込書に必ず明記しておくこと。
- (4) 監督・コーチは、スポーツウエア、テニスシューズを着用のこと。また、監督・コーチは中体連規程の監督証・コーチ証をつけること。外部指導者は中体連が定める外部指導者証も所持すること。
- (5) ベンチ外からのコーチは禁止する。（イエローカード提示の対象とする。）

卓 球

1 参加規定

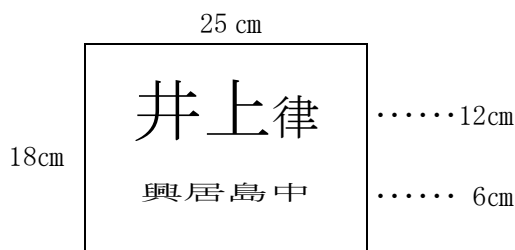
- (1) 第 37 回愛媛県中学校新人体育大会兼第 18 回愛媛県中学校新人アスリート強化育成大会競技別出場数基準による。
- (2) 団体戦は、選手 8 名以内、監督 1 名をもって編成登録する。
なお、監督の他にコーチとして、1 名のベンチ入りを認める。ただし、学校部活動に関しては、出場校の教職員（部活動指導員を含む）もしくは、校長の承認を得た外部指導者のいずれかとする。地域スポーツ団体に関しては、その団体の 20 歳以上の構成員とする。当日やむを得ない理由で欠員が生じた場合、または部員数が 4 人、5 人の場合は、次の要領で試合を進行する。
 - ① 対戦相手が人数不足の場合
 - ア 1 名不足（6 人对 5 人）の場合 → 5 人チームの 1 番負けとして試合。
 - イ 2 名不足（6 人对 4 人）の場合 → 4 人チームの 1 番・2 番負けとして試合。
 - ② 両チームとも人数不足の場合
 - ア 1 名不足（5 人对 5 人）の場合 → 1 - 1 で試合を開始。2 番は親善試合。
 - イ 1 名不足と 2 名不足（5 人对 4 人）の場合 → 2 - 1 で試合を開始。3 番・4 番で勝敗を決定。
 - ウ 2 名不足（4 人对 4 人）の場合 → 1 - 1 で試合を開始。3 番・4 番・5 番で勝敗を決定。（ただし、4 番で勝敗が決定した場合、記録は 3 - 2、2 - 3 とする。）
 - ③ 3 名以下の場合は、オープン参加とする。
- (3) 個人戦は、シングルスとダブルスを兼ねることはできない。なお、アドバイザーとして 1 名のベンチ入りを認める。ただし、学校部活動に関しては、監督または当該校の教職員（部活動指導員含む）、校長の承認を得た外部指導者、生徒のいずれかとする。地域スポーツ団体に関しては、その団体の構成員とする。

2 競技方法

- (1) 団体戦は、予選リーグの後、決勝トーナメントを実施する。個人戦は、トーナメント方式で実施する。
- (2) 団体戦は、3 番にダブルスをおく 4 単 1 複で、3 点先取法とする。シングルス、ダブルスに重複して出場できない。
- (3) 団体戦を 1 日目、個人戦を 2 日目に実施する。

3 競技規定

- (1) 現行の(公財)日本卓球協会が制定したルールによる。
- (2) 大会使用球は、40 mmの(公財)日本卓球協会公認ホワイト球（プラスチック）とする。
(VICTAS (VP40+)、Butterfly(R40+)、Nittaku(PLMIUM CLEAN))
- (3) 出場選手は、下図のように白布に選手名（姓）と学校名を記入したゼッケンを背面中央部に必ず付けること。なお、同姓の場合は名を 1 字だけ加える。ゼッケンは、(公財)日本卓球協会交付のものでもよい。



バドミントン

1 参加規定

- (1) 第37回愛媛県中学校新人体育大会兼第18回愛媛県中学校新人アスリート強化育成大会競技別出場数基準による。
- (2) 団体戦
 - ・ 1チームにつき、監督1名、コーチ又はマネージャー1名、選手5～7名を同一校又は県中体連に登録済みの同一地域クラブ活動チームで編成する。
 - ・ チームは、ダブルス2組、シングルス1組とし、シングルスとダブルス及びダブルスとダブルスを兼ねて出場することはできない。
 - ・ 試合最低人数に満たない場合、次のとおりの条件で出場することができる。
 - ① 4人で出場する場合、シングルスを棄権する。
 - ② 3人で出場する場合、第2ダブルスを棄権する。
- (3) 個人戦
 - ・ シングルスとダブルスを行う。
 - ・ シングルスとダブルス及びダブルスとダブルスを兼ねて出場することはできない。
 - ・ ダブルスは、同一校又は県中体連に登録済みの同一地域クラブ活動チームで編成する。

2 競技方法

- (1) 各種目ともトーナメント方式を用いる。
- (2) 団体戦は、第1ダブルス、シングルス、第2ダブルスの順に行う。

3 競技規定

- (1) 現行の(公財)日本バドミントン協会競技規則並びに大会運営規程・公認審判員規程による。
- (2) コーチについては、出場校の校長が認めた者又は県中体連に登録済みの地域クラブ活動チーム指導者で、必ずコーチ証を身に付ける。
- (3) マネージャーについては、出場校又は県中体連に登録済みの地域クラブ活動チームの生徒とする。
- (4) 団体戦は、2点先取法で行う。ただし、どちらかのチームが第一試合目の際は全て行う。
- (5) 試合球は、室温に適した(公財)日本バドミントン協会第二種検定合格水鳥球を使用する。
- (6) 服装は、上下とも(公財)日本バドミントン協会審査合格品とする。
- (7) 選手は、下図のように白布に黒または濃紺(楷書)で所属校又は所属チーム名と姓を記入したゼッケンを背面中央部につけて出場する。

なお、文字の大きさは6～10cmとし、同姓の場合は、名前の1字目を小さく入れる。

30cm以内



20cm以内

ソフトボール

1 参加規定

- (1) 第37回愛媛県中学校新人体育大会兼第18回愛媛県中学校新人アスリート強化育成大会競技別出場数基準による。
- (2) 各地区・地域クラブ活動男女代表チーム（選手18名以内、監督1名、コーチ1名、引率責任者1名とする。）

2 競技方法

男子はリーグ戦、女子はトーナメント方式とする。

3 競技規定

- (1) すべての試合で80分を超えて新しいイニングには入らない。トーナメント方式の場合、80分を超えて7回を終了していなくても同点の場合、あるいは80分以内で7回を終了し同点の場合は、次の1イニングのみタイブレークルールを採用する。それでも勝敗が決しない場合は抽選とする。ただし、準決勝・決勝戦は、勝敗が決するまでタイブレークルールを採用する。リーグ戦の場合、勝ち3点、引き分け1点、負け0点とし、勝ち点が多いチーム順に順位をつける。勝ち点と同じ場合は、試合が終了した(時間で終了)時点での、2試合の得失点差、失点率が低い、得点率が高い、抽選の順で順位をつける。
- (2) 選手は18名（スコアラー1名を含む）以内とする。なお、他にベンチ入りは、引率責任者・監督、コーチ、合計21名以内とする。
- (3) 使用球は、男女とも検定3号ボール（ナガセケンコー）とし、本部にて準備する。
- (4) 金属製スパイク・セラミック製スパイクは禁止する。
- (5) 試合前のノックは、当日1回目の試合のみ5分以内とする。
- (6) 試合開始予定30分前または前の試合4回終了時には、オーダー表を提出する。
- (7) 1・3塁のベースコーチは監督・コーチ・選手とする。
- (8) コーチには、フィールディングは認めるが、選手交代・打ち合わせ・抗議等の権限は認めない。
- (9) その他は、2024年オフィシャル・ソフトボール・ルールによる。

4 注意事項

- (1) ファウルボールは両チームのベンチで拾い、審判員に届ける。
- (2) 試合後・ノック後のグラウンド整備は両チームで行う。
- (3) 審判員・記録員・大会役員や相手チームに対しては中学生らしいマナーで接し、真剣なプレーを行う。

柔 道

1 参加規定

(1) 第 37 回愛媛県中学校新人体育大会兼第 18 回愛媛県中学校新人アスリート強化育成大会
競技別出場数規準による。

(2) 団体戦 男子 各地区代表チーム 監督 1 名、コーチ 1 名、選手 7 名以内とする。
(3 名以上での出場も認める。)

女子 各地区代表チーム 監督 1 名、コーチ 1 名、選手 4 名以内とする。
(2 名での出場も認める。)

(3) 個人戦 男女とも 8 階級で実施する。

- | | | |
|------|-------------------------|-------------------------|
| ① 男子 | 50kg 級 (50kg 以下) | 55kg 級 (50kg 超～55kg 以下) |
| | 60kg 級 (55kg 超～60kg 以下) | 66kg 級 (60kg 超～66kg 以下) |
| | 73kg 級 (66kg 超～73kg 以下) | 81kg 級 (73kg 超～81kg 以下) |
| | 90kg 級 (81kg 超～90kg 以下) | 90kg 超級 (90kg 超) |
| ② 女子 | 40kg 級 (40kg 以下) | 44kg 級 (40kg 超～44kg 以下) |
| | 48kg 級 (44kg 超～48kg 以下) | 52kg 級 (48kg 超～52kg 以下) |
| | 57kg 級 (52kg 超～57kg 以下) | 63kg 級 (57kg 超～63kg 以下) |
| | 70kg 級 (63kg 超～70kg 以下) | 70kg 超級 (70kg 超) |

2 競技方法

(1) 団体戦

- ① 男女とも各組でリーグ方式を行い、各組の 1 位・2 位チームによって決勝トーナメント方式を行う。
- ② 男子は 1 チーム 5 人制、女子は 1 チーム 3 人制により試合を行う。
- ③ チーム編成は、男女とも体重の重い者を大将とし、以下順次体重順とする。交代の選手と入れ替えた場合においても、同様に体重順とする。試合毎の選手位置の入れ替え及び一度退いた選手の再出場は認めない。
- ④ 試合時間は 3 分間とし、代表戦における延長戦（ゴールデンスコア）は無制限とする。
- ⑤ 勝敗の判定基準は、「一本」「技あり」又は「僅差（『指導』の差 2）」とする。
- ⑥ 優劣の成り立ちは以下のとおりとする。

「一本」 = 「反則勝ち」 > 「技あり」 > 「僅差」

- ⑦ トーナメント方式の勝敗は、次の方法によって決定する。
 - ア チーム間における勝ち数による。
 - イ アにおいて同等の場合は内容により決定する。
 - ウ イにおいて同等の場合は、1 名による代表戦により決定する。
- ⑧ 代表戦は任意の選手とし、判定基準は団体戦と同様とする 3 分間の本戦を行い、得点差がない場合は延長戦（ゴールデンスコア）により勝敗を決する。延長戦による勝敗の決定方法は、個人戦と同様とする。

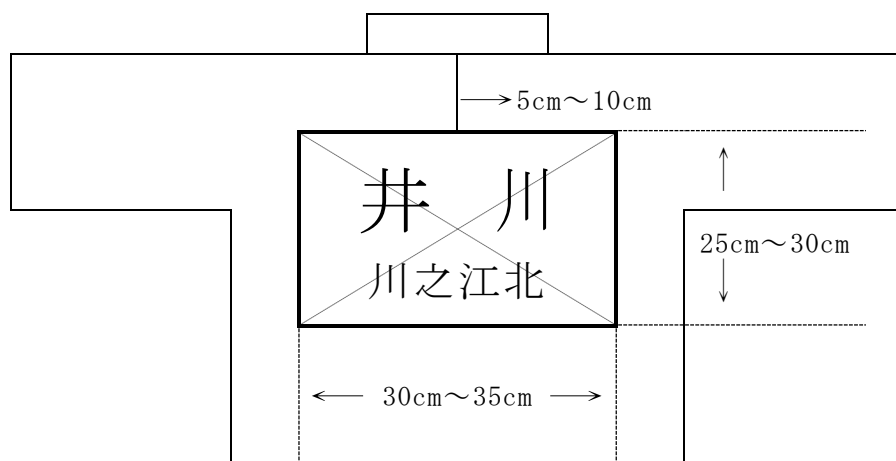
(2) 個人戦

- ① 男女ともトーナメント方式で行う。但し、出場選手が4名以下の階級については、リーグ方式による。
- ② 試合時間は3分間とし、延長戦（ゴールデンスコア）は、無制限とする。
- ③ 勝敗の判定基準は、「一本」「技あり」又は「僅差（『指導』の差2）」とする。得点差がない場合は延長戦（ゴールデンスコア）により勝敗を決する。延長戦（ゴールデンスコア）で新たに指導差がついた時点で勝敗が決する。
- ④ 両者反則負けの場合には、次の試合に進めない。

(3) 団体戦は1日目、個人戦は2日目に実施する。

3 競技規定

- (1) 国際柔道連盟試合審判規定（2022年4月1日より施行の改正ルール）及び同国内における「少年大会特別規定」による。
- (2) 柔道衣は白色とする。
- (3) （公財）講道館から正式に段位証書が交付されている有段者は男女とも黒帯を用いること。
- (4) 現行の（公財）全日本柔道連盟柔道衣規格に合格した柔道衣（上衣・下穿き・帯）を着用すること。（新規格の赤色のマーキングのもの）
- (5) 柔道衣に必ずゼッケン（学校名・名字入り）を縫い付けて出場すること。
 - ① 布地は白（晒、太綾）
 - ② サイズは横30～35cm、縦25～30cmとする。
 - ③ 名字（姓）は上側2/3、学校名は下側1/3とする。
 - ④ 書体は太字ゴシック体とする（明朝または楷書でもよい）。
 - ⑤ 文字色は、男子は黒色、女子は濃い赤色とする。
 - ⑥ 縫い付け場所は襟から5cm～10cm下部の位置で、周囲と対角線を強い糸で縫い付ける。
 - ⑦ 胸にチーム名の刺繍がある場合は、ゼッケンとチーム名が一致していることとする。



- (6) 女子は、上衣の下に白色又は白に近い色の半袖で無地のTシャツ又は半袖のレオタードを着用すること。※Tシャツのマーキングについては、（公財）全日本柔道連盟が定める規定（平成25年4月1日より施行）に準ずる。
- (7) 柔道衣コントロールの際は、試合時につけるサポーター等を着用して受けること。

4 監督・コーチ

- (1) 監督【校長・教員（非常勤講師は除く）・部活動指導員・地域クラブ活動指導者（申請している者）】1名の他に、コーチ【教職員・外部指導者（コーチ）・地域クラブ活動指導者（申請している者）】1名をおくことができる。コーチは1校1名とし、他校と兼ねることはできない。
- (2) 団体戦・個人戦とも、監督・コーチの2名が試合場内に入場できる。
- (3) 監督・コーチは、審判員に準じた服装にすること。
- (4) 監督・コーチの言動により試合の進行に支障があると認めた場合は、運営責任者の判断で、当該監督・コーチの退場を命ずることができる。命令に従わない場合は、当該校・選手を失格とする。
- (5) 外部指導者（コーチ）は、県中体連の「外部指導者（コーチ）に関する規程」の資格・申請方法等の要件をすべて満たす者とする
- (6) （公財）日本中学校体育連盟が定めた「全国中学校体育大会開催基準 9引率監督参加資格の特例」に記載されている内容を遵守する。

5 計量

- (1) 11月15日（金） 団体・個人計量 8：20 ～ 9：00
個人計量 団体戦表彰式終了後、30分間
- (2) 11月16日（土） 個人計量 8：20 ～ 9：00

※ 団体計量は1回のみとする。上記の時間を過ぎての計量は実施しない。個人計量において時間内に合格しない場合は失格とする。

6 その他

- (1) 皮膚真菌症（トラブランス感染症）について、発症の有無を各所属の責任において必ず確認すること。感染が疑わしい、もしくは感染が判明した選手については、迅速に医療機関において、的確な治療を行うこと。皮膚真菌症の感染が発覚した場合は、大会への出場ができないこともある。
- (2) 脳震盪対応について選手及び指導者は下記事項を遵守する。
 - ① 大会前1ヵ月以内に脳震盪を受傷した者は、脳神経外科の診察を受け、出場の許可を得ること。
 - ② 大会中、脳震盪を受傷した者は、継続して当該大会に出場することは不可とする。なお、至急専門医の精査を受けること。
 - ③ 練習再開に際しては、脳神経外科の診断を受け、許可を得ること。
 - ④ 大会事務局及び（公財）全日本柔道連盟に対し、書面により事故報告書を提出すること。
- (3) 初心者が試合に出場するまでの期間は、練習開始から少なくとも6ヶ月経過後とする。

剣 道

1 参加規定

- (1) 第37回愛媛県中学校新人体育大会兼第18回愛媛県中学校新人アスリート強化育成大会競技別・出場数基準による。
- (2) 個人戦：各地区男女代表者、
団体戦：各地区男女代表チーム（正員5名、補員2名以内とする。）

2 競技方法

- (1) 第1日：個人戦、第2日：団体戦
- (2) 1日目の個人戦は、トーナメント方式で行う。2日目の団体戦は、予選リーグ戦後、決勝トーナメント戦を行う。個人戦の組合せは、中体連剣道競技規定（地区順位の照らし合わせ）により、本部で決定する。

3 競技規定

- (1) 試合は、(公財)全日本剣道連盟「剣道試合・審判規則・細則」及び令和5年度(公財)日本中学校体育連盟剣道競技部申し合わせ事項によって行う。更に、新型コロナウイルス感染症が終息するまでの暫定的な試合・審判の方法として、以下を含めた試合・審判の方法とする。

ア 『主催大会実施にあたっての感染拡大予防ガイドライン【暫定的な試合・審判の方法】』（令和4年5月27日(公財)全日本剣道連盟)

イ 『新型コロナウイルス感染症が収束するまでの暫定的な試合審判法』（令和5年4月1日(公財)全日本剣道連盟)

ウ 『全剣連発出「主催大会実施にあたっての感染拡大予防ガイドライン」を受けての試合・審判に関する統一事項』解説映像(DVD)(令和3年2月(公財)日本中学校体育連盟剣道競技部長)

エ 『剣道審判員 共通認識事項』

- (2) 試合は、3分3本勝負とする。時間内に勝敗が決しない場合は、団体戦は引き分け、個人戦は勝敗が決しない場合は2分ごとの延長戦を、勝敗の決するまで行う。

ア 団体戦（予選リーグ）

(ア) 3チームまたは4チームを1組とし、予選リーグ戦を行う。各組の上位2チームによるトーナメント戦方式で順位を決定する。

(イ) 得点は勝ちチームが1点、引き分けは0.5点、負けは0点とし、得点、勝者数、総本数の順で予選リーグの順を決める。

(ウ) リーグ戦1位が3チームまたは4チームの場合は、登録選手7名の中から任意の代表者による代表者戦を3分3本勝負、延長戦を2分区切りで勝敗が決するまで行う。なお、試合順はリーグ戦と同じとし、試合毎に代表者の変更を認める。リーグ戦2位が3チームの場合も同様とする。

(エ) リーグ戦1位が2チームの場合は、登録選手7名の中から任意の代表者による代表者戦を3分1本勝負、延長戦を2分区切りで勝敗が決するまで行う。リーグ戦2位が2チームの場合も同様とする。

イ 団体戦（決勝トーナメント）

(ア) 勝者数、本数ともに同数の場合は、3分間1本勝負の代表者戦を行う。時間内に勝敗が決しない場合は、2分ごとの延長戦を、勝敗の決するまで行う。

- (3) 延長戦における休息等は次の通りとする。

試合時間3分⇒延長2分⇒延長2分⇒【小休止（深呼吸をする程度）】※開始線付近で10秒程度

⇒延長2分⇒延長2分⇒【面を外しての休息・給水（5分）】

⇒延長2分⇒延長2分⇒【小休止（深呼吸をする程度）】※開始線付近で10秒程度

⇒延長2分⇒延長2分⇒【面を外しての休息・給水（5分）】⇒試合の続く限り繰り返す

- (4) 選手は、鏢競り合いをしない試合を心がけさせる。やむを得ず鏢競り合いとなった場合はただちに分かれるか引き技を出す。「鏢競り合いの解消」とは、お互いに間合い（竹刀が交わらない距離）を完全に切る。解消されない場合は審判員が「分かれ」、或いは状況により「止め」をかける。
- (5) 試合途中でも体調不良を感じた「本人」、あるいは競技者の様子に異変を感じた「監督」は、主審に対して試合の中断を申し出ることができる。その場合、状況に応じて面を外し水分補給ができる。
- (6) 登録選手は、申し込み後の変更を認めない。登録選手以外は、正員の位置に入れることはできない。
- (7) 団体戦では、一度補員と交代した者は再び選手として出場することはできない。
- (8) 選手席に入れる者は、登録選手、監督のみとする。監督は監督証を着用する。
- (9) 団体名等の刺繍（剣道着・袴）は、大きさ、色を含めて華美にならないように配慮する。また、剣道着袖口に団体名以外の名前の刺繍が入っている剣道着の着用は認めない。（関係のないワッペン等の着用も認めない。）
- (10) 学校名の場合は「中」と表記（中等学校は、□□中等、〇〇義務学校は〇〇義務、など）すること。地域スポーツ団体等（地域クラブ活動）の場合は、その団体名等を表記すること。団体名は横書き、姓は縦書きとし、同姓の選手がいるときは、名前の頭文字を入れることとし、別の選手であることが確認できること。
- (11) 面乳革は、大きさ、色、模様を含めて華美にならないように配慮し、色は黒色または紺色とする。面紐の長さは、結び目より 40cm 以内とする。
- (12) 面金は、通常の配色のものとする。（通常の配色とは、面金前部が銀色、面ぶち革の色が外側黒、内側朱のもの。）アイガード・ポリカーボネット面は認める。
- (13) インフルエンザ・コロナウィルス感染防止対策として、面マスクまたはマウスシールドの使用を義務付ける。
- (14) 竹刀は男女とも 114cm 以下とし、竹刀の先部の直径は男子 25mm 以上、女子 24mm 以上でなければならない。また、先革の長さは 50mm 以上とし、ちくとう最小直径男子 20mm 以上、女子 19mm 以上とする。重さは男子 440g 以上、女子 400g 以上とする。化学繊維竹刀の使用は認める。弦の色は、白・黄・紫のみとする。事前に柄革に学校名と氏名を記入し、他の大会の合格シール等ははがしておくこと。
- (15) 柄革は、滑り止めや模様等のない無地のもので、白色とする。
- (16) 鏢の大きさは、直径 9 cm 以下とし、色は革色（白色可）を使用する。（絵付きのものは着装の状況による。）
- (17) サポーター等（足袋、テーピング、コルセットを含む）の使用については、医療上必要と認められた場合に限り認める。使用する場合は、試合開始までに各審判主任に届け出ること。サポーター等は、肘、膝などに付けるものをかかるとに付いたりゴムや革及び滑り止めに底に貼った物の使用を禁止する。（相手に危害を与える、公正さを欠くという観点から。）指先単独でのテーピングは、届け出は不要。届け出と違う物を使用した場合は替えさせる。
- (18) 上段の構えはとらせない。隻腕については、その都度協議する。

4 外部指導者について

(1) 外部指導者（コーチ）の取り扱いについて

本引率細則が適用されるのは、学校事情により、校長・教員・部活動指導員が引率できないと校長が判断した場合に適用するものである。安易に引率者として外部指導者（コーチ）の引率を認めるものではない。

引率者としての外部指導者（コーチ）には、監督の資格を認める。その手続きは、別紙様式もって行う。
一部抜粋「愛媛県中学校体育連盟主催大会引率細則」（令和 6 年 4 月 1 日施行）

(2) 監督の資格について

ア 監督の資格を有する外部指導者の場合

- (ア) 監督となる者が校務や怪我等の理由により、引率および監督ができない場合のみ監督として参加することができる。監督席に座ったり、試合場付近に立ち入ったりすることができる。ただし、資格を正しく確認し、トラブル防止に努めること。

(イ) 申込書の監督名の欄に外部指導者の氏名を記入し、氏名の後に(外)を記入すること。また、部活動指導員が監督をする場合も同様に、監督名の欄に部活動指導員の氏名を記入し、氏名の後に(部)を記入すること。

イ 監督の資格を有していない外部指導者の場合

(ア) 監督をしたり、監督席に座ったり、試合場付近に立ち入ったりすることができない。その他の入場については制限しない。

(イ) 申込書の外部指導者名の欄に氏名を記入する。

5 その他

(1) 地域クラブ活動において、やむを得ない事情で監督が引率することができなくなった場合は、大会事務局へお問い合わせください。

(2) 開閉会式は行わない。

(3) 1日目の個人戦終了後、2日目の団体戦に向けての練習会場として、メインアリーナのみを1時間程度開放する。

6 注意事項

(1) 各自、紅白の目印を持参する。

(2) 各団体、オーダー表を持参、当日の朝受付に提出のこと。(4人の場合は次鋒抜き、3人の場合は次鋒・副将抜き)

(3) 当日、団体戦の正員の中で、怪我等で出場できなかつたり、欠席したりする可能性がある選手がいる場合は次鋒と副将に入れること。(出場できない可能性のある選手が1名の場合は次鋒に、2名の場合は次鋒と副将に入れること。)

【オーダー表サイズ】

	16cm	10cm	10cm	10cm	10cm	10cm
23cm	学 校 名	先 鋒	次 鋒	中 堅	副 将	大 将

(4) 竹刀検量を行う。不正竹刀は大会終了まで本部にて預かる場合があります。

	1日目	2日目
場所	アリーナ土居サブアリーナ	
時間	開館後9時20分まで(個人戦出場選手のみ) 競技終了後から1時間程度	開館後9時30分まで

※稽古中や試合中にシールが剥がれた場合は本部にて再度検量を行う。

7 その他

(1) 審判・監督会議は、会議室にて1日目は9時30分、2日目は9時から行う。

(2) 2日とも開館は8時、競技開始時間は、1日目は11時、2日目は10時とする。

(3) 練習について

日付	11月8日(金)(前日)	11月9日(土)	11月10日(日)
時間	16時~18時	開館~15時	開館~14時
場所	アリーナ土居メインアリーナ サブアリーナ	アリーナ土居サブアリーナ	

相 撲

1 参加規定

(1) 第 37 回愛媛県中学校新人体育大会兼第 18 回愛媛県中学校新人アスリート強化育成大会競技別出場数基準による。

① 団体：本大会に出場を希望するチーム

【ただし、各郡市大会（予選）に出場していること。】

② 個人：本大会に出場を希望する選手

【ただし、各郡市大会（予選）に出場していること。】

2 競技方法

(1) 団体の部

① 出場チームが 8 チーム以上の場合

* A・B の 2 つのリーグをつくり、それぞれ総当たりのリーグ戦を行う。

* それぞれのリーグの上位 2 チーム（計 4 チーム）で再度決勝リーグ戦を行って順位を決定する。

* それぞれのリーグ 3・4 位のチームも順位決定リーグ戦を行う。

② 出場チームが 7 チーム以下の場合

* 全出場チームによるリーグ戦を行い、順位を決定する。

(2) 個人の部

① 軽量級（60 kg 未満）、中量級（75 kg 未満）、重量級（75 kg 以上）に分けて行う。

* 予選リーグ戦を行った後、決勝トーナメントを行う。

② 無差別級（①に出場した選手も出場可）

* トーナメント方式で行う。

3 競技規定

(1) 日本相撲連盟競技会規程・審判規程・審判規程補足による。

(2) 時 間 3 分間を限度とする。

(3) 禁じ技

① 反り技	⑤ 合掌（相手の背後に手を回して組む）
② 河津掛け	⑥ 鴨の入れ首
③ さば折り	⑦ 首を脇の下に入れる
④ 極め出し・極め倒し	



反り技



河津掛け



さば折り



極め出し
極め倒し



合掌



馬の入れ首



首を脇の下に入れる

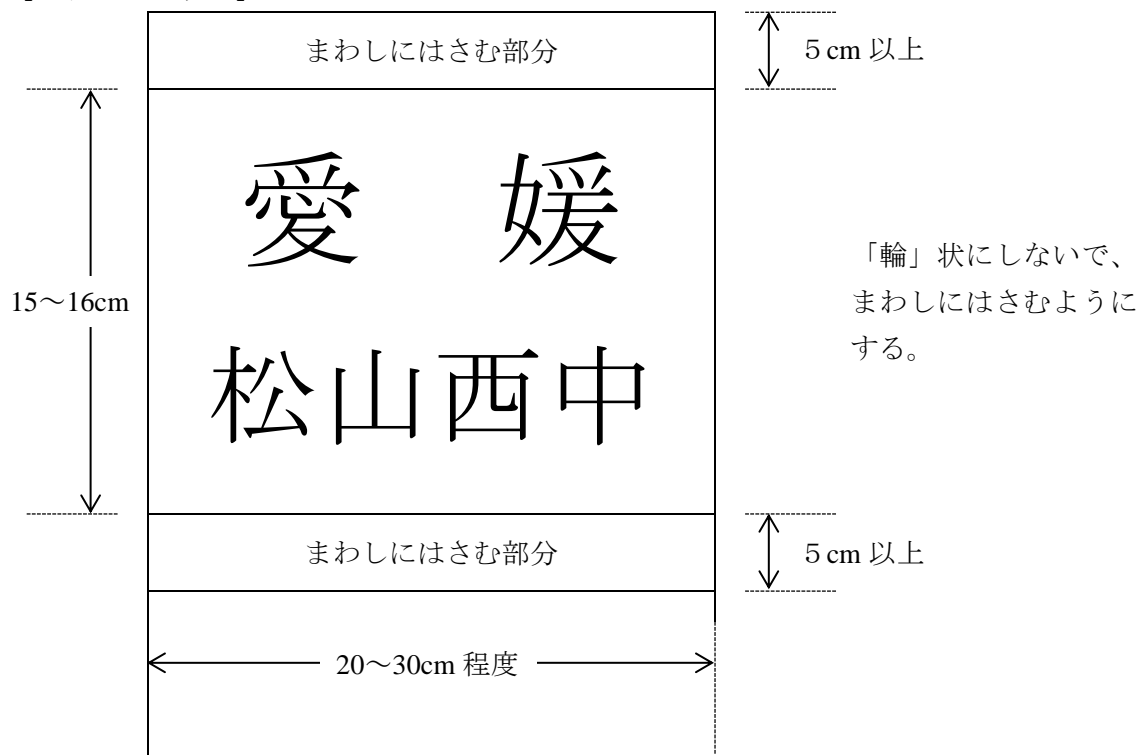
以上の技を禁手（技）に加え、反則した場合は取り直しとし、再度した場合は反則負けとする。

- (4) 交代 補員が出場する場合は、本部の承認を要し、団体戦に限り前選手の位置を継承する。ただし、一度退いた選手は、再び出場することはできない。
- (5) 立合 ① 主審の「構えて」「両手を同時について」の掛声に従い、両手を同時について静止する。
② 主審が静止状態を確認し、「引きますよ」と声をかける。
③ 「ハッケヨイ」のかけ声で立ち合う。
- (6) 異議申し立て ① 競技の判定に対する異議の申し立ては、担当の審判に限る。
② 一度勝名乗（かちなのり）を上げて決定した後は、一切異議の申し立ては認めない。
- (7) 競技方法 ① 選手は、呼出しに応じ土俵に上がり、徳俵の内側において立礼を行う。土俵中央に進み、蹲踞して主審の合図により仕切に入る。
② 勝名乗は、蹲踞で受ける。
- (8) 服装 ① まわし及びアンダーパンツ以外を身に付けてはならない。
② 負傷者は、包帯、サポーター、足袋等を身に付けることができる。ただし、支柱入りのサポーター、その他相手に危害を及ぼすおそれがあると認められるものについては、この限りではない。
※ アンダーパンツは、学校の体操服（短パン）の着用を認める。
※ アンダーパンツをつかんではいけない。勝敗に影響する行為があった場合は、審判団の協議とする。

4 注意事項

- (1) 声援は認めるが、サイドコーチと認められるものは禁止する。
- (2) 校名をまわしの前に必ず付ける。
- (3) 手足の爪を端正にする。
- (4) タオルを準備しておくこと。
- (5) 監督は「監督証」を、コーチは「コーチ証」を必ず所持すること。（厳守）

【ゼッケンの規定】



※ 字画の太さは、1cm程度とする。

ラグビーフットボール

1 参加規定

- (1) 第37回愛媛県中学校新人体育大会兼第18回愛媛県中学校新人アスリート強化育成大会競技別出場数基準による。
- (2) 各地区代表チーム【監督、選手22名、マネージャー1名以内とする。】クラブチームも同様とする。

2 競技方法

トーナメント戦（チーム数によってはリーグ戦）

3 競技規定

- (1) 1試合15分ハーフとする。（チーム数によっては10分ハーフ）
- (2) ヘッドキャップ、マウスガードを必ず着用する。
- (3) 日本ラグビーフットボール協会「U-15ジュニアラグビーの競技規則」に従う。
- (4) 順位の決定は、以下の順番に優先する。
 - ①勝率
 - ②得失点差
 - ③総トライ数
 - ④ゴール数

4 注意事項

- (1) 選手のユニフォームの上着はパンツの中に入れ、ソックスは上げておく。
- (2) 試合に出場する選手の健康状態に常に留意する。つめ・スパイクシューズのポイントの確認をする。

テ ニ ス

1 参加規定

(1) 第37回愛媛県中学校新人体育大会兼第18回愛媛県中学校新人アスリート強化育成大会競技別出場数基準による。

(2) 団体戦：各地区男女代表チーム

(チームは、同一校・同一クラブの選手4名以上10名以内で編成する。)

シングルス3人・ダブルス2ペアの5ポイントで行うが、選手がシングルスとダブルスに重複して出場することはできない。

(3) 個人戦：シングルス・・・各郡市 16人以内

ダブルス・・・各郡市 8ペア以内

(ダブルスのペアは、同一校・同一クラブの選手2名で編成する。)

2 競技方法

(1) 団体戦・個人戦は、次のとおり実施する。

① 団体戦：出場チームが4チーム以内の場合はリーグ戦。

5チーム以上の場合はトーナメント戦。(順位決定戦あり)

② 個人戦：シングルス：トーナメント戦

ダブルス：トーナメント戦

(2) 試合は、1セットマッチタイブレイクを原則とする。団体戦・個人戦(シングルス・ダブルス)とも、ノーアドバンテージ方式とする。

(3) 団体戦と個人戦(ダブルス)を1日目、個人戦(シングルス)を2日目に実施する。

(4) 団体戦は、ダブルス2、ダブルス1、シングルス3、シングルス2、シングルス1の順に行うが、オーダーは実力順でなくてもよい。

※ エントリーが7人に満たない場合、以下のようにダブルス・シングルスの下位のランキングを棄権とする。(メンバー全員が出場する。)

- | | | | | | |
|---|-------|-----------|----------|----------|--|
| ① | 4人のとき | ダブルス2：棄権 | ダブルス1：○ | | |
| | | シングルス3：棄権 | シングルス2：○ | シングルス1：○ | |
| ② | 5人のとき | ダブルス2：棄権 | ダブルス1：○ | | |
| | | シングルス3：○ | シングルス2：○ | シングルス1：○ | |
| ③ | 6人のとき | ダブルス2：○ | ダブルス1：○ | | |
| | | シングルス3：棄権 | シングルス2：○ | シングルス1：○ | |

※ 棄権によって、勝ち数が同じになった場合、ダブルス1・シングルス2・シングルス1の3ポイントの結果で勝敗を決定する。

3 競技規定

- (1) (公財)日本テニス協会「テニスルールブック」による。
- (2) 審判は、セルフジャッジとする。
- (3) 使用球は、ダンロップオーストラリアンオープンとする。
- (4) 服装は、上下ともテニスウェアとする。(ゼッケンなどは必要ない。)

4 注意事項

- (1) 受付終了後、試合のできる準備をして待機すること。
- (2) 指示があるまでコートには絶対入らないこと。
- (3) 受付後、10分間の練習時間を設け、試合前の練習はサービス4本のみとする。
- (4) 団体戦では、試合毎にオーダー用紙を2部、本部に提出する。
- (5) 団体戦では、リーグ戦の場合は勝敗決定後も全ての試合を実施するが、トーナメント戦の場合は、勝敗決定後の残りの試合は打ち切りとする。
- (6) 団体戦のみ、各コートベンチに監督・コーチ・外部指導者(コーチ)・登録選手のうち、1名がつくことができる。ただし、監督・コーチ・外部指導者(コーチ)からは1名とする。